

百人一首を覚えよう！ その9（81～90）

81. ほととぎす 鳴きつる方を ながむれば ただ有明の 月ぞ残れる
(ほととぎす なきつるかたを ながむれば ただありあけの つきぞのこれる)

(後徳大寺左大臣 (ごとくだいじのさだいじん) (1139～1191) 「千載集」)

82. 思ひわび さても命は あるものを 憂きに堪へぬは 涙なりけり
(おもひわび さてもいのちは あるものを うきにたへぬは なみだなりけり)

(道因法師 (どういんほうし) (1090～?) かなり長生き) 「千載集」

83. 世の中よ 道こそなけれ 思ひ入る 山の奥にも 鹿ぞ鳴くなる
(よのなかよ みちこそなけれ おもひいる やまのおくにも しかぞなくなる)

(皇太后宮大夫俊成 (こうたいごうぐうのだいぶしゅんぜい) (1114～1204) = 藤原俊成 (ふじわらのとしなり (しゅんぜい)) 「千載集」)

84. 長らへば またこのごろや しのばれむ 憂しと見し世ぞ 今は恋しき
(ながらへば またこのごろや しのばれむ うしとみしよぞ いまはこひしき)

(藤原清輔朝臣 (ふじわらのきよすけあそん) (1104～1177) 「新古今集」)

85. よもすから 物思ふころは 明けやらぬ 閨のひまさへ つれなかりけり
(よもすから ものおもふころは あけやらぬ ねやのひまさへ つれなかりけり)

(俊恵法師 (しゅんえほうし) (1113～?) 「千載集」)

86. 嘆けとて 月やは物を 思はする かこち顔なる わが涙かな
(なげけとて つきやはものを おもはする かこちがほなる わがなみだかな)

(西行法師 (さいぎょうほうし) (1118～1190) 「千載集」)

87. 村雨の 露もまだひぬ 槇の葉に 霧たちのぼる 秋の夕暮
(むらさめの つゆもまだひぬ まきのはに きりたちのぼる あきのゆうぐれ)

(寂蓮法師 (じゃくれんほうし) (～1202) 「新古今集」)

88. 難波江の 蘆のかりねの ひとよゆゑ みをつくしてや 恋ひわたるべき
(なにはえの あしのかりねの ひとよゆゑ みをつくしてや こひわたるべき)

(皇嘉門院別当 (こうかもんいんのべっとう) 女流歌人) 「千載集」

89. 玉の緒よ 絶えなば絶えね ながらへば 忍ぶることの 弱りもぞする
(たまのをよ たえなばたえね ながらへば しのぶることの よわりもぞする)

(式子内親王 (しょくしなしいんのう) (?～1201)

= 後白河天皇の皇女) 「新古今集」

90. 見せばやな 雄島のあまの 袖だにも 濡れにぞ濡れし 色はかはらず
(みせばやな をじまのあまの そでだにも ぬれにぞぬれし いろはかはらず)

(殷富門院大輔 (いんぷもんいんのたいふ) 女流歌人) 「千載集」